

様生小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数による個に応じた学習の充実を図る。
- 言語力を高める学習の充実を図る。
- 家庭と連携し家庭学習習慣の確立を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業、教員からの報告等の機会を設け、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字プリントや計算ドリルなどを朝の活動時に行ってきたため、計算の基礎的な力は身につけている。 ●国語の総合的な力の弱さが見られる。前学年で学習した漢字の習熟が十分でなく、それらの言葉の意味を把握していないことが多い。語彙力や読解力が低いことも課題である。	・基本的な読み書き計算などの技能をしっかりと身につけ、活用することができる。 ・本に親しむことで、語彙力を増やし、長い文章でも内容を理解できる。	①前学年で学習した内容のプリントやタブレット端末などを利用して学習する機会を設ける。 ②全校で1年間に1000冊本を読むことを目標とし、実践する。 ③辞書を引かせたり、文章を読んで大事だと思う箇所には線を引かせたりする。	全国学力・学習状況調査並びにステップアップテストの結果分析から、新聞を読む児童の割合が低いことがわかった。そのため、こども新聞を読むよう促すことにした。また、日記などの文章を書くときは習った漢字は使うよう意識付けをしたり、秤やます、メジャーなどを使い量感を養ったりするようにした。	・前学年で学習した内容のプリントやタブレット端末などの利用の機会を多くもてた。 ・全校で1年間に1000冊の本を読むことを目標とし、低学年は目標冊数を達成できた。 ・文章に線を引かせることはできていたが、要点を的確に捉えて引くことができなかった。 ・新聞に興味を持って読む児童もいたが多人数ではなかった。具体物を用いての学習や漢字使用の意識付けは一定の成果が見られた。	・基礎的・基本的な知識を定着させるために、朝のドリル学習の時間を有効に使い、前学年の復習や当該学年の既習事項の復習をする時間にしている。 ・具体物を用いての学習や漢字使用の意識付けを継続する。 ・身につけた知識を用いて課題を解決する力がつくよう主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を促進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題をこなし、パターン化された表現の練習等には、意欲的に取り組む。 ●学習した知識を生かして考えたり、答えを導き出したりすることが難しく、「わからない」と諦めてしまうことが多い。そのため、自分の言葉で考えを発表することには消極的である。また、語彙が不足しており、相手意識をもって筋道を立てて説明することが苦手である。	・習得した知識を他の学習や場面でも活用できるようにする。 ・目的や相手に応じて適切に話をするができる。	①身につけた知識を用いて課題を解決できる学習活動を増やす。 ②ホワイトボードやタブレット端末を用いた発表や話し合い活動をさせる。 ③近隣の小学校とのオンライン交流で、タブレット端末などを利用して自分の意見を発表する機会を設ける。 ④全校での話し合い活動、集会、学級会などの活動を計画的に取り入れる。	全国学力・学習状況調査並びにステップアップテストの結果分析で、問題文を読み取りイメージできる力が十分でないことから、「徳島版読解力」を各教科に生かせるよう一層校内研修に努めることとした。	・身につけた知識を用いて課題を解決する体験的な学習活動の機会を多くもてた。 ・ホワイトボードやタブレット端末を用いた発表や話し合い活動、近隣の小学校とのオンライン交流で、自分の意見を発表する機会が多くなった。他校生や異学年児童の多様な考えに触れることができた。 ・「徳島版読解力」を各教科に生かすことは、不十分だった。全校での話し合い活動、集会、学級会などの活動を計画的に取り入れることができ、それぞれの活動で理由をつけた意見を発表できた。	・ICT機器の効果的な活用方法について、ICT支援員とも連携して教職員の研修を深める。 ・全校話し合い活動を継続する。 ・「徳島版読解力」をさらに生かせるよう指導方法の工夫改善に努める。 ・自分と他の人の意見を比較して考える習慣を身につけることができるよう校内で共通理解を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝のドリルや教科の学習はまじめに取り組む。また、苦しいことにも前向きに取り組む児童が増えてきた。 ●読書に親しむ子どもは増えてきているが、全体的に十分とは言えず、家庭での読書習慣の定着が課題である。	・学習課題に進んで取り組み、学ぶ楽しさやできる喜びを感じ、自信をもつことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、自分の課題を見つけ解決することができる。 ・読書に親しみ、家庭でも読書をする習慣を身につけることができる。	①毎時間のめあてやまとめの書き方等、板書やノート指導について改善を図り、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。また、振り返りの時間を設定し、自己の学びを深めることができるようにする。 ②タブレット端末などを活用し、自ら課題を見つけて学習に取り組む機会を設ける。 ③毎週火曜日の朝の活動は、地域の方による読み聞かせや読書の時間にする。本を読んだ後や行事の後は、感想を学級や全校などで発表する機会を設ける。	取り組みが充実するよう、継続する。	・授業のめあてや流れがわかるように板書計画や資料の提示の仕方を工夫した。 ・タブレット端末を使って、自分の課題に応じた漢字学習や計算問題に取り組めた。 ・平行読書した本の感想を発表することで、様々な種類の本を読もうとする児童が増えた。 ・下学年は、授業の振り返りを考えて発表できるようになった。家庭で自主学習をしようとする児童もいる。 ・上学年は自主学習に意欲的に取り組むようになった。	・毎時間のめあてや振り返りの書き方等、ノート指導について改善を図る。 ・更にタブレット端末を有効に活用し、自分の課題に合った問題を選んで学習する習慣をつける。 ・平行読書が継続できるよう、読書環境を整える。

令和6年度 学力向上ロードマップ

